

## リンダ デルガド／米国出身の元キリスト教徒（前）

:

明:米国人の 人警官によるイスラ ム改宗 。

目:[事新改宗者ムスリムの逸 女性](#)

より: リンダ デルガド

日 4 Jun 2013

集日 24 Jun 2013

およそ5年前、私は52 のキリスト教徒でした。教会の定着メンバ には一度もなったことがありませんでしたが、私は人生の中でずっと真 を求め けてきました。多くの教会に通い、そこでの教 たちと学んできましたが、何一つピンと来るものはなく、それらが神についての真 ではないと していました。私は9 の から 日 を み けてきました。 去の年月を通して、私がいかに真 を求め けてきたかは言 ではありません。

年の真理探究において、私は 々な宗教を学んできました。カトリックの牧 とは1年以上に渡って、 に2回勉 しましたが、カトリック信仰を受け入れることは出来ませんでした。エホバの 人とも1年 学びましたが、これも受け入れられませんでした。LDS（末日 徒イエスキリスト教会、通称モルモン教）とは2年近く勉 しましたが、それでも真 を 出すことは出来ませんでした。また私にはユダヤ教徒の友人がいて、ユダヤ教の信仰についても多くの を交わしました。そして多くのプロテスタント教会にも、私の持つ疑 解 消のため、数カ月 位で 度が通いました。

私の心は、イエスは神ではなく 言者なのだと呼んでいました。私の心は、アダムとイヴは彼ら自身の罪に 任を持つのであり、彼らの罪は私とは ないのだと呼んでいました。私の心は、神以外の存在ではなく、神のみに礼 せよ、と呼んでいました。私の理性は、私には善行と 行の双方に 任があり、神は して人の形をして私にその 任はないのだと言ったりはしないと呼んでいました。神は全知全能であるため、人 として生き死に

する必要なんか無いのです。

当の私は多くの疑を抱え、そのことについて神に助けを祈っていました。私が怖れていたことは、真を知らぬに死に直面することでした。私は 繁に祈りました。宣教や牧などから得られる答えは、「これは神秘的なのです」といったものでした。私は神が人々に天国を望んでいるのだと感じていたため、そこにたどり着く方法や、いかに人生を生きるべきなのか、またはどのように神を理解すればよいのかといった重要なことを のままとするはずはないと信じていました。私は直感的に、耳に入ってくる情が虚であることを理解していました。

当の私は52で、米国アリゾナ州に住んでいましたが、ムスリムと会をしたことすらありませんでした。私は他の欧米人同、メディアによってイスラムが「狂信的なテロリストの宗教」であると思いきされていたため、イスラムについてはいかなる本や情を んだりもしたことがありませんでした。この宗教については何一つ知りませんでした。

4年前、私は警察官としての24年のキャリアを えて引退しました。引退の一年前、私は巡部でしたが、世界中の警察官には共通の 束があり、私たちはそれを法行における兄弟／妹と呼んでいました。国籍や警察の部署が っても、必ずお互いを手助けしていたのです。

その年、私は米国の大学で英を学びつつ、警察アカデミに参加するために渡米してきたサウジアラビアの警官グルプから、援助の要を受け取りました。サウジ人の警官たちは、ホストファミリーと暮らし、英や米国の を勉めるような 境を探していました。

私の息子はシングルペアレントとして、男手一つで私の 娘を育てていました。私たち 夫は息子 子の手助けが出来るよう、彼らが の家で暮らすことの出来るようにしました。私は夫にサウジの警官のことを し、彼らを援助することに めました。娘にとって、

外国の人々と接することは良い教育となるからです。彼らがムスリムであるということは前もって いており、私はそのことに 味津々でした。

アリゾナ州立大学のサウジ人通 者が、アブドルという名の若者を れてきました。彼は英 が全く せませんでした。私は彼が住むことになる寝室やトイレを 介しました。私は即座にアブドルが に入りました。彼の礼 正しさや丁 な仕草は、私の心を ちとったのです。

次に、ファハドが家にやって来ました。彼はアブドルよりも若く、 ずかしがり屋でしたが、素晴らしい若者でした。私は彼らの指 となり、警察の や、米国、サウジアラビア、イスラ ムについての を多くの交わしました。私は彼らがお互いに、そして米国に英 を学びにやってきた他の16人のサウジ人と 携して助け合っているのを何度も目にしました。彼らの ごした一年 で、私はファハドとアブドルが米国文化に染まってしまわなかったことに逆に敬意を抱きました。彼らはどんなに疲れていても、金曜日にはモスクを れて礼 しましたし、常に食事 定に して注意を っていました。彼らは私に 的なサウジ料理の仕方を教えてくれたり、アラブレストランやマ ケットに れていってくれたりしました。また、私の 娘に してもとても 切でした。彼らは彼女にプレゼントをあげたり、冗 を言って笑わせたり、良き年 者として接しました。

彼らは私たち夫妻に しても敬意を ってくれました。彼らは 日、サウジ人の同僚たちと勉 に出かける前に、私たちがス パ などから何か入り用はないかと してきました。私は彼らにコンピュ タの使い方を教え、その一方でインタ ネットのアラブ新 などを んで、彼らの文化や宗教について学ぶようになりました。彼らが不快感を味わうような言行 をしたくはなかったからです。

ある日、私は彼らが余分なクルア ンを持ち合わせていないかと ねました。そこに何が かれてあるのか 味を持ったのです。彼らはワシントンDCの大使 に し、英 クルア ン、テ プ、その他の小 子を私のために取り寄せてくれました。私の要望によって、私たちはイスラ ムのことについて し合いました（彼らは英 を さなければならなかったもので、これが良い英 レッスンとしても 能しました）。私は彼らに 着を感じるようになってお

り、彼らはイスラ ムを教えた最初の非ムスリムが私であったことを教えてくれました。やがて彼らは警察アカデミ での一年 の勉学と を了しました。私は警察キャリアにおいて指 だったため、彼らの警察 の勉 を手助けできました。また、多くの警察の同僚たちも家に招き、彼らの大学の や英 の勉 を手 ってもらいました。ある 、留学生の一人の奥さんが米国にやって来たため、私は彼らの家に招待されました。彼らは非常に丁寧に迎えてくれ、彼の奥さんとはムスリムの身なりや礼 の清めなどについて し合うことが出来ました。

私の「息子たち」がサウジアラビアに 国する一 前、私は彼らの好物の 料理をふるまう夕食会を 画しました（それらすべてを料理することは出来なかったもので、一部はこっそり 入してきましたが）。私はヒジャ ブとアバ ヤ（イスラ ム的外衣）を 入しました。私のことをムスリムの として彼らに して欲しかったのです。食事前に、私はシャハ ダ（イスラ ム入信の信仰宣言）をしました。それはもう、泣いたり笑ったりで、とても 特 な を ごしました。私は心から、神が私の 年の祈りに答えるかたちで、彼らを私のもとに送ってくれたのだと信じています。神はイスラ ムの光によって、私が真 を ることの出来るようにしてくれたのです。神はまさに、イスラ ムを私の家に送り届けてくれたのです。私は神のご慈悲、 、そして思いやりを えます。

## イスラ ムへの旅立ち

サウジの息子たちは、私の改宗から一 に 国しました。私は彼らをととても恋しく感じましたが、それでも幸福でした。私は改宗のほぼ直 から地元のモスクに定着メンバ として加わり、ムスリムとしての登 を ませました。私はムスリム コミュニティからの 待を期待しました。ムスリムたちは皆、私が 去一年 で出会ったサウジの息子たちや彼らの同僚たちのようだと思い んでいたのです。

私の家族は、依然としてショックの状 でした。彼らは私が 去そうだったように、新しい宗教に一 的にのめり んだ 、それに失望し、 の宗教にくら替えするのだろうと置いていたからです。私が日常生活で 化を せ始めたため、彼らはそれに いたのです。夫は日和 主 なので、私が今 ハラ ル（合法）食を食べ、食卓からハラ ム（禁忌）食を排除する

と言い出すと、ただ「OK」と言いました。

私の取った次の行は、家の中から人々や物の写真を外しだしたことです。ある日、仕事から帰宅した夫が遭遇した面は、私が壁などについてあった家族写真を大きなフォトアルバムにしまいこんでいるところでした。彼は傍するだけで、何も言いませんでした。

次に、私は家族に改宗についての手を出し、それが私たちの家族にもたらす化（何がわるのか、そして何がわらないのか）について述べました。またイスラムの基についてもいくつか明しました。家族は沈みました。私は礼の方法について、そしてクルアーンをめるようになるよう勉をけました。またインターネットのイスラム示板で活的になったことも、新たな学びの助けとなりました。

この事のウェブアドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/1739>

著作 2006-2015 断を禁じます。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断を禁じます。